

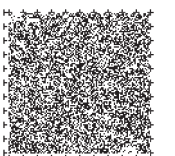
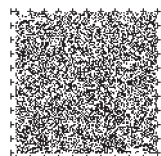
06

ひと

誰もが自分らしく働きながら 成長し続けられる環境で、 安心してキャリアを築ける未来

〔活動紹介〕

- イオンモールアルムナイネットワーク | イオンモール採用・育成部
- アスリートセカンドキャリア採用 | イオンモール採用・育成部
- 従業員休憩室 | イオンレイクタウンkaze(埼玉県越谷市)/イオンモールいわき小名浜(福島県いわき市)



イオンモール

アルムナイ

ネットワーク



どんなプロジェクト？

アルムナイ（退職者）とのつながりを強化し、ネットワークを構築するため、新たにSNSを開発。ネットワーク構築により、さまざまなバックグラウンドや異なる価値観を互いに認め合いながら、新たなつながりやビジネス協業に向けたアイデア・機会の創出をめざします。

アルムナイ（退職者）との
ネットワークを構築し
新たなつながりの創出をめざす。



イオンモールホームカミングデー

2024年9月、全国各地から9名のアルムナイに参加いただき、初のオフラインイベント「イオンモールホームカミングデー」を開催しました。



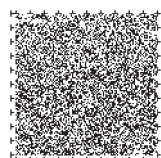
2週間に1度の割合で配信されるニュースレター。アルムナイからは「福利厚生の制度に変更があったら教えてほしい」など積極的な反応がある。

ここがユニーク！

イオンモールから定期的に当社に関わる情報や採用情報などを発信していくだけでなく、交流の場を提供し、アルムナイ同士の双方向のコミュニケーションを図ります。

2024年6月にコミュニケーションサイト「イオンモールアルムナイネットワーク」をオープンし、2024年12月時点で80名以上が登録。さまざまなチャットルームでアルムナイ同士の交流がうまれています。

2週間に1度のペースで投稿されるニュースレター。読んだアルムナイから欲しい情報のリクエストが届くため、運営側の新たな気づきにつながっています。



多様・多彩なひと × イオンモール



イオンモール
管理統括部 採用・育成部長
岡本 章世

イオンモール
管理統括部 採用・育成部
採用グループ
小松 優太

ワーク・イン・ライフ
働くことも、人生の一部

私たちは、採用活動を通じて多様な人材との出会いをめざしています。そして「地域とともに『暮らしの未来』をつくる」という経営理念の実現に向けて、働く人たちが活躍し、会社の成長だけでなく、その人自身の成長や自己実現につなげていくことを大切にしています。働くというも、人生の一部。イオンモールでは今、ワーク・ライフ・バランスではなく、ワーク・イン・ライフと表現しています。人生と仕事を分けて考えるのではなく、人生を通じてやりたいことを、仕事でも叶えていくことが大事であると考えています。

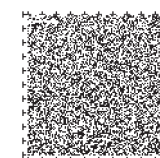
「イオンモールの強みですよ」
アルムナイの方から得た気づき

皆さんご存知のように転職市場が活況で、当社でも自己都合による離職率が4%近くになっています。数字だけを見るとネガティブに受け止められるかもしれませんが、労働組合のアンケートによると「会社に対して不満がある」という退職理由は減少傾向にあり「外の世界でチャレンジしたい」などポジティブなものが増えています。さらに「外に出て、イオンモールの良さに気づいた」と

いった声が聞こえてくるようになりました。イオンモールと接点を持った人たちと前向きな関係でつながり続けることで、会社に新たな風を取り入れられるのではないかと、そのためにもっと時代や価値観の変化に対応した仕組みがあっても良いのではないかと、そういう課題意識を感じていました。そこで、2024年6月にスタートしたのが「イオンモールアルムナイネットワーク」です。これは、イオンモールとアルムナイ、そしてアルムナイ同士がコミュニケーションを図れるSNSです。新しい一歩を踏み出した皆さんとの関係性をはぐくみ、新たなつながりやビジネス協業に向けたアイデア・機会の創出、希望があれば再入社につながっていくものです。

オープン後、順調に登録者数が増える中で「一度、集まってみたいよね」という声があり、オフラインイベント「イオンモールホームカミングデー」を開催しました。そこでは、アルムナイの今を応援し、アルムナイ同士のつながりを支援すること。制度面などを含めて今のイオンモールを知ってもらい、フィードバックをもらうこと。さらに、退職時に言えなかったネガティブなことがあれば教えてもらい、人事制度などに活かして

いくこと。大きくこの3つを大事にしました。特に印象的だったのは、フィードバックです。例えば「このSNSは、発案から実施まで3～4ヶ月ぐらいで進めたんですよ」と話すと、ある方は今の職場と比較しながら「そのスピード感は、イオンモールの強みですよ！」と言われたのです。イオンモールのことを知り、外の世界も知っているアルムナイからの意見は貴重であると実感しました。この交流を採用グループに閉じていたらもったいないので、2年目以降もつながりを深めながら、他部署や社員とのコラボレーションも実現できたらと考えています。イオンモールの社員は地域課題解決への意識が高く、退職してからも行政や地域に携わる仕事をしているアルムナイの方が多いです。つまり、イオンモール出身の皆さんと共創しながら地域貢献をめざすことができるのです。「地域共創なら、イオンモール」というプラットフォームのような役割を果たすことができれば最高ですね。



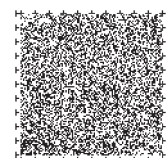
ウェルカムバック採用は「おかえりなさい」という気持ちで

「イオンモールアルムナインネットワーク」と同時に開始したのが、当社を自己都合で退職された方を対象とする「ウェルカムバック採用」です。2025年3月時点で、再入社した社員が3名います。当社のキャリア採用は年間30名程なので10%近くを占めていることになります。

当たり前ですが「退職＝裏切り」というような時代ではありません。外に出たことでイオンモールの良さを再発見し、再入社を希望してもらえるのは、大歓迎。制度の名称も「おかえりなさい」という気持ちを込めて「ウェルカムバック採用」に決めました。実は、ストレートに「おかえりな採用」という案もあったのですが……(笑)。



専用のSNSにはニュースレターや求人情報のルームのほか、アルムナイ同士が自由に交流できる場などさまざまなルームが用意されている。



カルチャーマッチングができていて、イオンモールで勤務していたときに培ったスキルがあり、さまざまなフィールドでの経験や知識を活かしながら再び活躍いただけるので、ご本人にとっても、配属先など受け入れる側にとっても良い取り組みだと感じています。また、配属先の若手社員がキャリア相談をした際に、ご自身の経験をもとに社内外を含めた可能性の広げ方などをアドバイスしてくれるなど、社員にとってプラスだと感じています。

フレンドのような関係性をはぐくむ絆採用

最後に「絆採用」についてご紹介します。私は新卒採用をしている中で、せっかくイオンモールの理念に共感いただき当社としても内定を出した方と、内定辞退によって関係性をゼロにしてしまうのはもったいないと感じていました。ゆるやかに関係性をはぐくみながら、また「イオンモールで働きたい」と思ってもらえたときにスムーズに応募につなげられたら……内定辞退者にもアルムナイのような取り組みができるのではないかと考えたのです。アルムナイが「ファミリー」なら、絆採用は「フレンド」のようなつながりをめざしています。「ファーストキャリアは違う会社だったけど、次はイオンモールで」となれば、うれしいですね。2025年卒以降の方を対象

に始めたのですが、6割近くの方がつながりを希望してくれています。そのほか「つながり」をキーワードにした採用として「社員紹介採用」もスタートしています。



チーム・イオンモールで仲間づくりと共創に挑む

これからの採用活動は、社員の皆さんを巻き込みながら「チーム・イオンモール」でチャレンジしていきたいと考えています。さらに言えば、採用活動は人材確保に留まらず、採用に対する考え方や取り組みを通じて新たなアプローチや社会課題を認知いただくこと、社外含め共感いただいた方とともに社会に価値を提供していくことができるのが理想です。選ばれ続けるイオンモールであるために私たち人事グループが「どうしたらできるだろう」「まずはやってみよう」という精神でチャレンジを続けていきたいと思っています。



人財に関連するプロジェクト

さまざまな地域での取り組みの一部をご紹介します。

PROJECT | CASE 02

アスリートセカンドキャリア採用



地域に根ざすアスリートを地域共創の担い手に。

スポーツのプロ化が進む中でアスリートの引退後のセカンドキャリアが社会課題の一つになっています。そこでイオンモールでは応募しやすいように採用の入口を明確にした「アスリートセカンドキャリア採用」を開始。地域に根ざしてスポーツに取り組んできた方を「地域共創人材」として採用し、行政や地域の窓口やヘルス&ウエルネス分野の担当として活躍いただくことをめざします。

PROJECT | CASE 03

従業員休憩室



イオンモールで働くすべての人の声に耳を傾け、快適に働ける環境を整える。

イオンモールでは、専門店の皆さんがイキイキと働ける環境づくりに取り組んでいます。ここでは、2つのモールの従業員休憩室のリニューアル事例をご紹介します。

1. イオンレイクタウン kaze | 埼玉県越谷市

2024年9月に「日本一の休憩室」をめざしてリニューアルしました。イオンレイクタウンのコンセプト「感性」「高揚感」「非日常」を踏襲し、空港のラウンジのような高級感のある内装でありながら、銭湯のお休処のような居心地の良さを共存。「横になれるスペースが欲しい」という専門店従業員の声を活かし、靴を脱げる畳スペースや仮眠スペースを設けました。サービスレベル向上アンケートでは、休憩室の項目で大幅に得点が向上しました。



2. イオンモールいわき小名浜 | 福島県いわき市

2024年10月にリニューアル。いわき市に根づく「ハワイ」感のあるデザインに仕上げました。従業員休憩室の名称「Link Station “Lea Lea (レアレア)”」は、つながりを持てる場所(Link Station)となり、疲れた体と心を楽ししく・気楽にできるように(“Lea Lea”(ハワイ語で幸福、気楽にの意味))という願いが込められています。「周りの視線が気になる」という改善希望をもとに座席を工夫、今では「おしゃれで、ずっとここにいたい」という声も寄せられています。

